

Q2

人はどのようなになったら「大人になった」といえると思いますか。年齢、身体的、知的、精神的条件など何でも構いません。(著者100人)

(回答の一部を紹介します。回答者50音順・敬称略)

●伊東信宏・大阪大准教授→異なる意見と居心地は悪いかもしれないが、共存できること。

●稲葉振一郎・明治学院大教授→誰も自分の面倒をみてくれなくなった時。

●梯久美子・ノンフィクション作家→自分や家族以外の人のために何かできることはないかと考え始めたとき。

●加藤陽子・東京大准教授→一人でいても孤独だと感じないような強さと知恵が備わっている時。

●龜山千広・フジテレビ映画事業局長→経済的に自立して税金をしっかりと払っている時。

●川島蓉子・マーケッター→自分で稼いで一人住まいをすることができるようになる時。

●北村想・劇作家→両親に対して「仕送りは必要ありません」と言えるようになったとき。

●黒沢清・映画監督→気分の合う仲間ではなくて、意見の合う同志ができたとき。

●斎藤高藤・歌人→冷蔵庫の残りものとひやごはんで、意外にうまいチャーハンが、ちゃちゃっと作れるようになったら。

●辛酸なめ子・漫画家→親の目を気にせず生きられるようになったら。

●瀬戸山玄・ノンフィクションライター→一人で初めての土地を旅し、見知らぬ人とも言葉がかわせ、財布の中もほぼ管理できて、腹をすかさず無事に戻れた時。

●高田文夫・放送作家→「大人しく」善と悪の区別がつく時。

●武田徹・ジャーナリスト→人前で自己紹介がソツなくこなせるようになったとき。

●東芋・現代美術家→力を抜く的確な場所が感覚でわかるようになったとき。

●榎山裕子・日本テレビプロデューサー→「自分の思い通りにならないこと」にきちんと対峙(たいじ)していく意思と方法論が身についていること。

●原武史・明治学院大教授→子供だったころの記憶を忘却したとき。男子ならば電車のようなモノよりも人間に関心が移るとき。

●藤崎圭一郎・デザインジャーナリスト→大人の自分と子どもの自分を使い分けられるようになったら。

●藤沢周・作家→広い意味で、自分で飯が食えること。

●藤野千夜・作家→とりあえず周囲から大人として扱われる年齢になったら大人ということ。

●藤原智美・作家→自分を分別のある存在だと妄想したときから。

●古川日出男・作家→出身地も生年月日も学歴も所属組織も書かずに、自分のプロフィールを400字以内にまとめられる時。

●星野博美・写真家→自分の人生のツケは自分で払う、という覚悟ができていれば大人。

●本田由紀・東京大准教授→自分の周囲の情勢を、多面的・総合的に把握し、「適応」と「抵抗」を戦略的かつ柔軟に使い分けられるようになること。

●町田康・作家→他者とならぶとき。

●マツモトヨコ・画家→病気や障害を持った人は例外として、自分で自分の生活を支える経済的な力を最低限持っていること。

●山田昌弘・東京学芸大教授→「他人を幸せにできる能力」が身についたとき。

●新実徳英・作曲家→「大人になった」と思った時。

2007.6.30

朝日新聞